

# 千秀だより

横浜市立千秀小学校

1月号

平成29年(2017)1月10日



## 子どもたちの笑顔の中に見える家族の愛

校長 市川 幸男

新年明けましておめでとうございます。今年は温暖な日々が続き、穏やかな年明けを迎えることができました。おかげさまで、校庭の早咲きの梅が満開となり、一足早い春を感じています。これから学校は単立ちと進級といった新しい年度への展望を見据えつつ、今年度のまとめに入ります。保護者・地域の皆様には昨年同様、本年も千秀小学校へのご理解・ご協力、どうぞよろしくお願い致します。

さて、冬休みが終わり、子ども達の元気な声が学校に戻っていきました。やはり学校は、子どもが主役です。登校してくる子ども達の笑顔を見るにつけ、きっとこの子たちは家族の温かい言葉、親の愛に包まれて、楽しく充実した冬休みを過ごしたのだと思います。

家族の愛といえば、私はいつも思い出すことがあります。それは、私がまだ担任をしていた頃の話です。その学校では、毎年、1月になると近隣の大きな公園を借りて持久走大会を開いていました。冬休みが終わると、学校をあげて大会の練習に入ります。そんな中、一人のお母さんからこんな話を伺いました。「家では、いい加減であり意欲を見せない子が、このところ毎朝、自主練習といっっては家の近くを走るようになったのです。その姿を見ていたら、親ばかかも知れませんが涙があふれてきてしまいました。」その子は、学年の持久走の練習では持っている力を出し切れず、いつも真ん中くらいでゴールしていたのですが、日を迫うにつれ30位、20位、と順位をあげ、最後の練習には一桁位の順位となり、大喜びで帰ってきたそうです。お母さんも我が子の頑張りを聞くたびに「すごいじゃない。」「練習の成果が出ているのね。」と励ましの言葉をかけていました。そして持久走大会の当日の朝「今日は、絶対1位をとってくるからね。」と強い言葉で意気込みを母親に投げかけ、出かけていきました。それまで何にも意欲を見せなかった我が子の変わりように驚きながらも、自信に満ちた表情に頼もしささえ感じたそうです。

いよいよ本番。スタートの合図とともに飛び出し、先頭集団をキープ。しかし、周りの子も本当の実力を出してきているのか、これまで以上の速いペースでのランニングに、周回を重ねるごとにスピードが落ち、一人、また一人と追い抜かれていってしまいました。表情が苦しさに変わり「途中であきらめてしまうのではないかと。」と、その時の心情をお母さんは話してくれました。結果は、12位。その子の目には涙があふれていました。きっと思い通りの走りができなかった後悔、思っていた順位が出せなかった悔しさからだと思います。お母さんは、この後、どんな言葉をかけてあげたらいいのか迷ったそうです。なぜなら、走ることを嫌いにならないで、来年再チャレンジしてほしい。この経験を大切にして次に生かしてほしいと思ったからだそうです。その夜、お母さんは、「頑張ってくれて、ありがとう。お母さんも頑張るからね。」とそれだけを話し、我が子をぎゅっと抱きしめたそうです。

ともすると、親子で理解し合えない、子どもが何を考えているのか分からない、何回も同じことを言わなければ伝わらない、といった声をよく耳にします。でも、私は思います。親子でしか分からない言葉が必ずあります。親子でしか伝わらない愛がきっとあります。子ども達は、ご家族からの言葉を待っています。しっかりと我が子を見ていきましょう。我が子のことをいつもどんな時でも見ていけば、きっと心の中から湧いてくる愛情に満ちた言葉が見つかると思います。私も、職員一同も、224人の親として千秀の子どもにかける言葉を見つけていきたいと思っています。